

総合的な利用メニューの充実に係る取組

内 容

1. 登山道・自然観察路の充実	3
1-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的	3
1-2. 結果	3
(1) 基本計画等の策定	3
a. 登山道等全体の見直し	3
① 登山道の現況把握調査	3
② 西大台利用調整地区における歩道現況調査	4
③ 周回線歩道解説標識の検討	5
④ 東大台地区の利用実態調査	5
b. 基本計画の策定	6
c. その他の条件整理	6
⑤ 西大台の大台ヶ原周回線歩道の現状把握と課題の抽出	6
(2) 整備の実施	7
a. 整備の実施	7
⑥ 周回線歩道解説標識の改修	7
(3) その他の実施項目	8
a. その他の実施項目	8
⑦ 登山道の整備のあり方	8
2. キャンプ指定地の設置	9
2-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的	9
2-2. 結果	9
(1) 候補地の検討、選定	9
①,② キャンプ指定地に関わる調査	9
3. 山上駐車場の周辺の活用	12
3-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的	12
3-2. 結果	12
(1) 諸条件の把握	12
a. 活用場所、期間	12
b. メニュー、プログラム	12
4. 自然解説・自然体験プログラムの充実	13
4-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的	13
4-2. 結果	13
(1) 基礎条件の把握	13
a. 現況課題の把握	13
① 大台ヶ原の利用の現状と課題	13

b. プログラムの検討.....	13
② 他地区の事例調査.....	13
③ 自然体験プログラムに関する意向調査.....	14
④ 大台ヶ原における自然体験プログラムの提案.....	16
⑤ ガイド制度等に関する先進事例の整理.....	16
⑥ 山岳地域におけるガイドの事例整理.....	18
⑦ ガイドの活動内容の事例整理.....	19
⑧ 全国で展開するガイド養成・資格制度の実施事例の整理.....	19
⑨ 大台ヶ原周辺におけるガイド等に関する現状把握.....	20
⑩ 旅行事業者ヒアリング結果からみるガイドの需要.....	20
⑪ 大台ヶ原周辺におけるガイドの実態調査.....	21
⑫ ガイド制度の推奨の仕組みの検討.....	22
⑬ 西大台利用調整地区利用者を対象としたガイドに対する意向調査.....	23
c. 人材の把握.....	25
⑭ 大台ヶ原ガイド研修会.....	25
⑮ 「ガイド研修会」参加者を対象としたアンケート.....	25
d. その他の条件整理.....	27
⑯ 自然体験プログラム、自然観察会の実態調査.....	27
(2) その他の実施項目.....	28
⑰ 自然体験プログラムの開催とアンケートの実施.....	28
⑱ アクティブ・レンジャーによる自然観察会の開催とアンケートの実施.....	30
⑲ パークボランティアによる自然観察会の開催とアンケートの実施.....	33
5. 情報提供・情報発信の充実.....	35
5-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的.....	35
5-2. 結果.....	35
(1) 情報提供・発信に係る現況調査と課題の整理.....	35
① ホームページの更新進捗状況.....	35
(2) 情報発信の充実.....	35
② ホームページによる情報発信.....	35
(3) その他の実施項目.....	36
③ 写真コンテストの開催.....	36
④ ホームページのアクセス状況.....	37
6. ビジターセンター機能の充実.....	38
6-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的.....	38
6-2. 結果.....	38
(1) 機能整理.....	38
① ビジターセンターの活動把握.....	38
(2) その他の実施項目.....	39
② ビジターセンター展示の改修.....	39

【大台ヶ原自然再生推進計画における総合的な利用メニューの充実の目的】

利用者に十分な情報提供と啓発を行うとともに、質の高い自然体験・環境学習を通じて利用者が自ら自然環境の大切さについて考えることを促すための総合的な取り組みにより利用の質の改善を図る。

1. 登山道・自然観察路の充実

1-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的

自然環境の保全と自然体験の促進の両面から現在の登山道・自然観察路を見直し、充実を図る。これにより利用層(技術、体力、知識、経験、目的等)に応じた自然体験の場を提供する。

1-2. 結果

(1) 基本計画等の策定

a. 登山道等全体の見直し

① 登山道の現況把握調査

(H17_p. 167-191)

(i) 調査対象

- a. 大台ヶ原周回線歩道 (西大台)
- b. 木和田大台ヶ原線歩道
- c. 筏場大台ヶ原線歩道

(ii) 調査結果

a) 大台ヶ原周回線歩道 (西大台)

【魅力】

- ・原生的な自然の魅力に満ち、大台開山以来の歴史に触れることのできるルートである。

【難易度】

- ・比較的に利用しやすいルートであるが、登山の装備と地図、磁石の携帯が求められる。

【利用影響】

- ・東大台と比較して程度は軽度であるが、既にルートの至る所で利用影響(洗掘、複線化、裸地化、ゴミ、外来種の侵入等)が確認できる。

b) 木和田大台ヶ原線歩道

【魅力】

- ・静かな森の雰囲気と大台・大峰の山並みを楽しむことのできるルートである。

【難易度】

- ・一定の装備と体力、宿泊を伴う時間的余裕が必要。

【利用影響】

- ・全体的に利用影響による登山道や植生の荒廃はみられない。

c) 筏場大台ヶ原線歩道

【魅力】

- ・多様な資源が分布しており、魅力の多いルートである。

【難易度】

- ・一定の装備と体力、宿泊を伴う時間的余裕が必要。

【利用影響】

- ・1箇所程度で洗掘を確認したが、全体的には利用影響による登山道や植生の荒廃はみられない。

② 西大台利用調整地区における歩道現況調査

(H17_p. 91-97) (H18_p. 20-27) (H19_p. 9-14)

(i) 調査対象

- ・西大台地区の周回線歩道

(ii) 調査項目

- a) 歩道の洗掘状況
- b) 歩道の複線化状況
- c) 主な滞留箇所における裸地化等の踏み道の状況
- d) 周回線歩道、登山道以外の踏み道の状況
 - ・(オオバコ分布調査) ※平成 17 年度のみ実施
 - ・(その他自然環境に影響を及ぼす恐れのある課題の確認) ※平成 17 年度のみ実施

(iii) 調査結果

a) 歩道の洗掘状況

H18 年度では 9 箇所の洗掘箇所が確認され、うち 8 箇所については複線化も確認された。大規模な洗掘箇所としては、H17 年度と同様、ナゴヤ谷手前の斜面とヤマト谷の吊橋の東側の直登区間で確認された。洗掘の主な発生原因としては、雨水の流路としての経年変化によるものと考えられる。

b) 歩道の複線化状況

H17 年度では 34 箇所、H18 年度では 29 箇所の複線箇所が確認された。H18 年度においては、H17 年度から植生が回復した箇所が 12 箇所、新たに確認された箇所が 7 箇所となり、前年度より 5 箇所の地点で改善の方向が見られた。

表 1 : H17 年度と H18 年度の複線化箇所

年度	H17 年度	H18 年度
重複箇所	—	22 箇所
植生回復箇所	—	12 箇所
新たな複線箇所	—	7 箇所
複線化数	34 箇所	29 箇所

H19 年度では、前年度に確認された複線化箇所の追跡調査を実施し、1 箇所で防鹿柵の設置によりほぼ解消し、4 箇所で植生の回復傾向が確認された。

c) 主な滞留箇所における裸地化等の踏み道の状況

H18 年度調査では H17 年度と同様、ナゴヤ谷、七ツ池、展望台等で大規模な裸地が確認された。

裸地化の発生原因としては、休憩や昼食時に多くの利用者が滞在する、過剰利用が影響していると考えられる。

H19 年度は、七ツ池看板付近の利用の影響が大きい部分(南側)と影響が小さい部分(北側)を含む範囲に 10m×15m の調査区を設定し、調査が実施された。

d) 周回線歩道、登山道以外の踏み道の状況

H17、18 年度調査で、周回線歩道とドライブウェイが近接する地点などで踏み道が確認された。H19 年度では、過去に踏み道が確認された 6 地点に 3 ラインずつの測定ポイントを設置し、調査を実施した。

③ 周回線歩道解説標識の検討

(H18_p. III-102) (H19_p. 41)

H14、15 年度に奈良県主体により整備基本計画、サイン基本計画が策定され、H18 年度に内容の更新が必要なもの、老朽化したものを対象に改修が実施された。

H19 年度では、西大台地区全体の標識の再点検の必要性があげられている。

④ 東大台地区の利用実態調査

(H19_p. 20)

H19 年度に東大台地区の周回線歩道の整備方針や安全対策を検討するために、利用者の属性、靴、服装、グループ形態、犬の同伴、カメラ撮影目的の入山グループ数の項目による利用実態調査が実施された。なお、調査は 2 日間実施され、調査対象は 2,897 人である。

【調査結果】

- ・利用者層：シルバー世代の利用が全体の 42.2%を占めている。
- ・靴：運動靴 60.4%、登山靴 33.3%、タウンシューズ 6.4%
- ・服装：登山・ハイキングファッションが 92.9%を占めている
- ・グループ構成：夫婦・カップルが 46.2%を占めている。
- ・犬の同伴：2 日間で 19 匹で比較的多い傾向にある。
- ・写真撮影目的の入山グループ数：18 グループ(個人も含む)。

b. 基本計画の策定

c. その他の条件整理

⑤ 西大台の大台ヶ原周回線歩道の現状把握と課題の抽出

(H17_p.175)

西大台の大台ヶ原周回線歩道の区間、大和田大台ヶ原線歩道、筏場大台ヶ原線歩道の3路線を対象に、既存文献及び現地調査により、現状把握と課題の抽出が行われた。

a) 西大台の大台ヶ原周回線歩道

【登山道としての魅力】

- ・ブナやカエデなどの森が広がる原生的な自然の魅力に満ち、大台開山以来の歴史にふれることのできるルートである。

【登山道としての難易度】

- ・高低差は270mと少なく、約4時間の中級向きとされ、比較利用しやすいルートであるが登山の装備と地図、磁石の携帯が求められる。

【利用影響の有無・程度】

- ・歩道の洗掘、複線化、広場的空間の裸地化、ゴミ、踏み込みに強い外来種などの利用影響が確認されている。

b) 大和田大台ヶ原線歩道

【登山道としての魅力】

- ・展望台など、複数の地点から静かな森の雰囲気と大台・大峰の山並みを眺望できるルートである。

【登山道としての難易度】

- ・標高差1,050mであり、小処温泉登山口～大和田方面への分岐点まで上り約6時間、下り約5時間かかるため、一定の装備と体力、宿泊を伴う時間的余裕が必要。

【利用影響の有無・程度】

- ・全体的に利用影響による登山道や植生の荒廃はみられない。

c) 筏場大台ヶ原線歩道

【登山道としての魅力】

- ・大峰山系を眺望できる区間やブナ林などの森林景観、河川など多様な資源が分布しており、魅力の多いルートである。

【登山道としての難易度】

- ・標高差約1,000mであり、北山林業～山頂まで上り約4.5時間、下り約3.5時間かかるため、一定の装備と体力、宿泊を伴う時間的余裕が必要。

【利用影響の有無・程度】

- ・全体的に利用影響による登山道や植生の荒廃はみられない。

(2) 整備の実施

a. 整備の実施

⑥ 周回線歩道解説標識の改修

(H18_p. III-102)

H18年度に内容の更新が必要なもの、老朽化したものを対象に改修が実施された。

表 2：解説標識内容一覧

	タイトル	内容
No. 1	大台ヶ原のご紹介	・大台ヶ原の地形・気候・自然の概要について
No. 2	大台ヶ原の現状 ～森の衰退～	・大台ヶ原の森林衰退について
No. 3	苔むす森を再び -100年先を見すえて-	・自然再生推進計画の概要について
No. 4	自然に配慮した歩道です	・定められたルートを歩くことについての注意喚起 ・自然に配慮した歩道について
No. 5	シカの影響がわかります	・植物に対するシカの影響について
No. 6	昔はこのような森でした	・森林衰退以前の姿(1963年の写真)について ・森林衰退の原因について
No. 7	比べてみて下さい	・昔(1969年)と現在との植生の比較
No. 8	ツクシシャクナゲ	・ツクシシャクナゲについての解説
No. 9	小さな働き者・分解者たち	・フンや落ち葉等を分解する昆虫や土壌動物の働きについて

(3) その他の実施項目

a. その他の実施項目

⑦ 登山道の整備のあり方

(H18_p. 250)

「大台ヶ原と世界遺産大峯奥駈道の利用を考えるシンポジウム」

日時： H17年9月24日(土) 12:30～15:30

場所：奈良県橿原文化会館 小ホール

対象：登山利用者、自然保護団体、公共交通機関、関係機関等

【登山道の整備のあり方】

- ・ 自然環境の状態を把握したうえで、利用者層、環境の状態、自然体験の質を合わせてメリハリをつけるべき。
- ・ 荒廃の速度を抑える再生に向けての取り組みが必要。
- ・ 動植物、地形などの自然資源のほかに「地域の人」という文化資源も重要である。
- ・ 地元の方を含め、幅広い主体が関わる中で登山道の維持管理を支えるシステムが必要。

2. キャンプ指定地の設置

2-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的

質の高い自然体験・環境教育を提供する一手法として、豊かな自然を間近に感じながら食事・睡眠をとることのできるキャンプ指定地を設置する。

2-2. 結果

(1) 候補地の検討、選定

①, ② キャンプ指定地に関わる調査

(H17_p. 141-165)

H17年度に8箇所の候補地が選定され、現地分析が行われているが、その後、具体的な検討には至っていない。

【対象地の条件】

- ・法規制：集団施設地区内で候補地を抽出する
- ・地形：造成を必要としない平坦地もしくは平坦に近い緩傾斜地とする
- ・下層植生：裸地もしくは大台ヶ原に広く分布するミヤコザサ上とする
- ・既存施設利用：既存のトイレを利用できる場所を優先する
既存の水場があればこの利用を優先する
- ・管理指導効率：管理上の効率を踏まえ駐車場との距離が近い候補地を優先する

【候補地とその評価】

候補地

- | | | | |
|--------------|-----------------|------------------|------------|
| a. 旧野営場周辺 | b. 旧トイレ周辺 | c. 旧ビジターセンター建物敷地 | d. 現駐車場の一角 |
| e. 大台荘売店西側林内 | f. シオカラ谷登山道入口周辺 | g. 山の家前の広場 | h. 大台山の家敷地 |

a) 候補地1 (旧野営場周辺)

【メリット】

- ・駐車場・トイレに近い。
- ・駐車場との高低差により、一般利用者との接触頻度が少ない。
- ・駐車場に隣接すること、野営場として利用経緯があることから、既に影響を受けている。

【デメリット】

- ・トイレの斜面下に位置する。
- ・北側に駐車場の法面が目に入る。
- ・特別保護地区との境界部にあたる。

b) 候補地2 (旧トイレ周辺)

【メリット】

- ・駐車場・トイレに近い。
- ・倉庫、トイレ跡、炊事場跡などを利用できるため、自然環境へのインパクトは比較的少ない。

【デメリット】

- ・ 駐車場・トイレに近く、一般利用者との接触頻度が高い。

【必要な調整事項】

- ・ 倉庫機能の移転等

c) 候補地3 (旧ビジターセンター建物敷地)

【メリット】

- ・ 駐車場・トイレに近い。
- ・ 建物敷地を利用するので植生への直接的影響はない。

【デメリット】

- ・ 利用頻度の高い駐車場東面に隣接する。
- ・ 周回線歩道に隣接しており、一般利用者との接触頻度が高い。

【必要な調整事項】

- ・ 建物及び敷地の利活用方針

d) 候補地4 (現駐車場の一角)

【メリット】

- ・ 駐車場・トイレに近い。
- ・ 駐車場の舗装面を利用するので植生への直接的影響はない。

【デメリット】

- ・ 駐車場車両の影響を受ける。
- ・ 自然公園の中の雰囲気を感じにくい。

【必要な調整事項】

- ・ ピークカットの取組み

e) 候補地5 (大台荘売店西側林内)

【メリット】

- ・ 駐車場・トイレに近い。
- ・ 一般利用者との接触頻度が少なく、林内の雰囲気を体感することができる。

【デメリット】

- ・ これまで利用に供されていない森林植生に一定の影響を与える。
- ・ 周囲にも緩傾斜の森林が広がっており、立ち入り防止対策が必要。

f) 候補地6 (シオカラ谷登山道入山口周辺)

【メリット】

- ・ 駐車場・トイレに近い。
- ・ 周回線歩道に隣接する区域であるため、これまでも一定の人為影響を受けてきた区域である。

【デメリット】

- ・ 周回線歩道に隣接するため、一般利用者との接触頻度が高い。

g) 候補地7(山の家前の広場:裸地).....

【メリット】

- ・造成地を利用するので植生への直接的影響はない。
- ・駐車場、周回線歩道から離れており、比較的静かな環境が保たれている。

【デメリット】

- ・駐車場・トイレからの距離が遠く、管理効率や周辺環境保全の上で問題。

【必要な調整事項】

- ・トイレ、水道等山の家施設の利用

h) 候補地8(大台山の家敷地).....

【メリット】

- ・建物敷地、造成地を利用するので植生への直接的影響はない。
- ・駐車場、周回線歩道から離れており、比較的静かな環境が保たれている。

【デメリット】

- ・駐車場・トイレからの距離が遠く、管理効率や周辺環境保全の上で課題。

【必要な調整事項】

- ・山の家建物の撤去及びトイレ、水道等の整備

3. 山上駐車場の周辺の活用

3-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的

山上駐車場およびその周辺において、大台ヶ原の新しい利用を進めるための活動拠点、交流拠点の機能を充実させる。

3-2. 結果

(1) 諸条件の把握

a. 活用場所、期間

b. メニュー、プログラム

(H16_p. 152)

H16 年度に活用メニュー、プログラムが検討されているが、活用場所や期間などの具体的な検討には至っていない。

H16 年度に検討された活用メニューは以下のとおりである。

・地域文化体験イベント

地域物産の販売や郷土料理の調理体験、木工品の制作体験など、地域文化とふれあい地域への理解を深めるイベントの開催。

・大台ヶ原の自然を知るイベント

自然解説や写真展など大台ヶ原の自然への理解を深めるイベントの開催。

4. 自然解説・自然体験プログラムの充実

4-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的

マイカー規制や利用調整地区の導入検討と並行して、ガイドツアー等の自然解説・自然体験プログラムを充実し、質の高い自然体験・環境教育を提供する。これに伴い、ガイドの資質向上、地域人材の発掘・育成を図る。

4-2. 結果

(1) 基礎条件の把握

a. 現況課題の把握

① 大台ヶ原の利用の現状と課題

(H16_p. 203-205)

H16 年度に、環境省が主体となって実施している自然観察会の現状を把握し、自然体験プログラムの実施に向けた課題整理を行った。

【課題】

(i) 回数の少なさ

- ・H16 年度の利用者アンケート調査では、40%程度の利用者が自然観察会への参加を希望している。現在の実施回数ではニーズを大幅に下回っている。
- ・大台ヶ原では、天候不良による中止の可能性が高く、実際の実施回数は計画よりもさらに少ない。

(ii) 情報の不足

- ・インターネットでの情報公開は利用者が限定される可能性がある。
- ・事前申込みだけでなく、当日受付の枠を広げる必要がある。

b. プログラムの検討

② 他地区の事例調査

(H16_p. 231-251)

H16 年度に自然体験プログラムの導入に向けた検討のため、以下の他地区の事例調査が実施された。

表 3：他地区の事例概要

種別	活動名称	管理運営形態	設立年	活動フィールド	評価・参考すべき点
先進的な取り組みを行っている自然学校の事例	やまぼうし自然学校	NPO法人	2000年	長野県菅平高原他	・地域活性化に寄与
	ホールアース自然学校	NPO型任意団体	1982年	静岡県富士山他	・充実したスタッフと人材育成プログラム
大台ヶ原をフィールドの1つとしている自然学校の事例	大杉谷自然学校	官設民営型NPO法人	2001年	三重県宮川村 大台ヶ原他	・地域連携
自然公園での活動の事例	尾瀬山の鼻ビジターセンター	(財)尾瀬管理財団	1958年	ビジターセンター周辺	・エコツアーの実施 ・各種ボランティアとの連携
	尾瀬沼ビジターセンター		1964年		
地域資源を活かした取組み事例	白神山地のグリーンツーリズム	実施：繻ヶ沢町	2002年	青森県繻ヶ沢町	・地域振興に寄与

※ 名称や管理運営形態等は、H16年現在のものである。

③ 自然体験プログラムに関する意向調査

(H16_p. 220)

平成 16 年度に自然体験プログラムを実施するにあたり、利用者に対するアンケート調査により、自然プログラムについての意向把握を行った。なお、回答数は 360 票である。

a) 参加したい自然体験プログラム(複数回答)

・多くの回答者が参加したい意向を示したものは、「ガイド付き自然観察会」、「夜の観察会、星の観察会」、「日の出を見る会」であり、それぞれ約 30~40%となっている。

※なお、平成 17 年度に実施された自然体験プログラムでのアンケート調査でも、「野生動物の観察会」、「夜の自然観察会」、「星の観察会」などが上位に位置していることから、これらのプログラムはニーズが高いと言える。

・半数以上の人々が、2~3 種類の自然体験プログラムに対して参加を希望している。

表 4：参加したい自然体験プログラム

自然体験プログラム	回答数	%
ガイド付き自然観察会	143	39.7
夜の観察会、星の観察会	129	35.8
日の出を見る会	105	29.2
大台ヶ原の自然研究	97	26.9
ガイド付き日帰り登山	81	22.5
写真撮影会・写生会	49	13.6
自然保護ボランティア	46	12.8
ガイド付き1泊登山	40	11.1
工作体験	31	9.0
ネイチャーゲーム	30	8.3
学習会	25	6.9

n=360

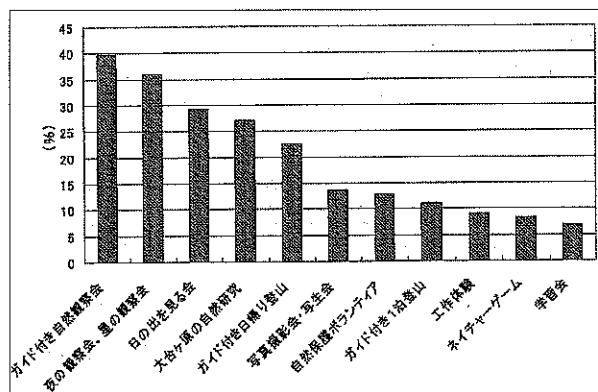


図 1：参加したい自然体験プログラム

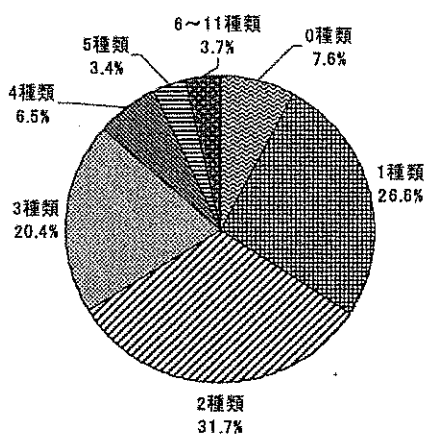


図 2：参加したい自然体験プログラム数

b) 短期イベントの日程(複数回答)

- ・ 宿泊型よりも日帰りの希望が多い。
- ・ 1泊2日の日程では「土曜日出発・1泊2日」の希望が比較的多い。

表 5: 都合のよいイベント日程

イベント日程	回答数	%
平日出発・日帰り	100	27.8
平日出発・1泊2日	59	16.4
土曜日出発・日帰り	141	39.2
土曜日出発・1泊2日	97	26.9
日曜日出発・日帰り	92	25.6
参加したくない	18	5.0
その他	4	1.1

n=360

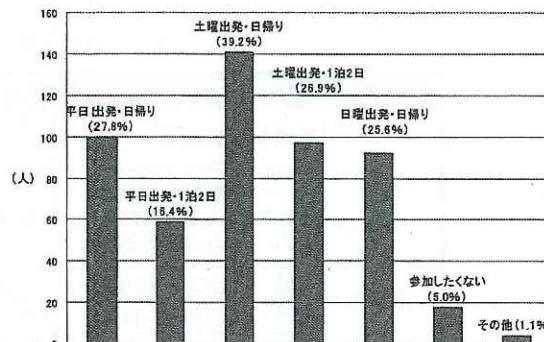


図 3: 都合のよいイベント日程

c) 短期イベント時の宿泊先(複数回答)

- ・ 「山頂の宿泊施設」を希望する人が全体の60%を超える。
- ・ 「近隣のキャンプ場」については、年齢が低いほど需要が高い。

表 6: 短期イベント時の宿泊先

宿泊場所	回答数	%
山頂の宿泊施設	217	60.3
ふもとの宿泊施設	117	32.5
近隣のキャンプ場	53	14.7
参加したくない	22	6.1
その他	6	1.7

n=360

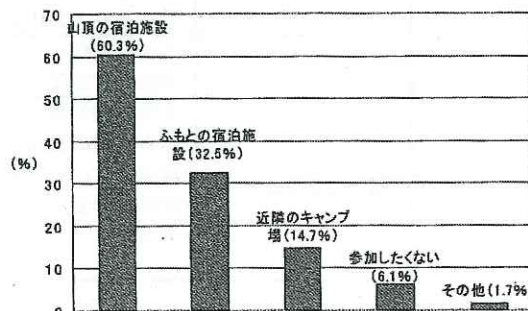


図 4: 短期イベント時の宿泊先

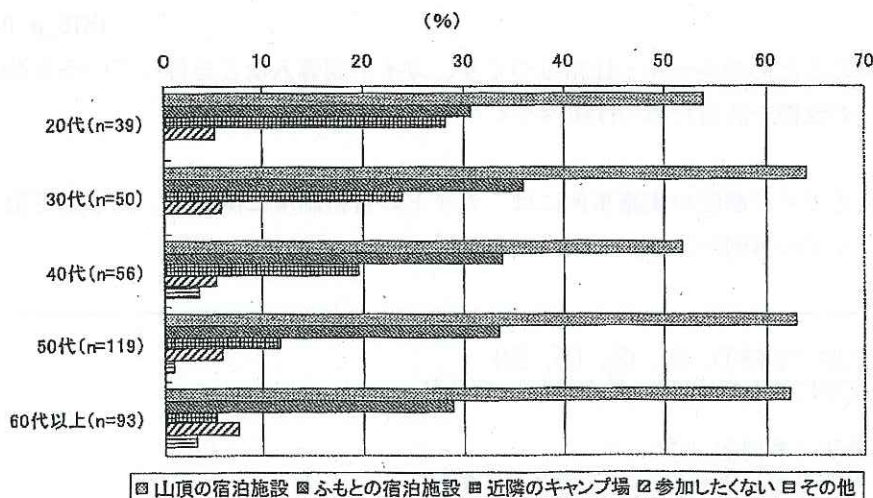


図 5: 年齢別の希望する宿泊場所

④ 大台ヶ原における自然体験プログラムの提案

(H16_p. 253-259)

H16年度に各種事例調査やアンケート調査の結果を踏まえ、大台ヶ原における自然体験プログラムの提案がされている。

表 7: 自然体験プログラムの実施期間と手順

期間	取組み内容	具体的内容等
短期	基礎条件の把握	・アンケート、ヒアリング等による現状の課題 ・ニーズの把握、他地区の事例調査
	マイカー規制社会実験の連携事業としての自然体験プログラムの実施と検証	・結果と課題の把握
中期	組織、体制づくりの検討	・協議会、WG等による検討会
	地域人材の発掘・育成	・地元人材把握、人材育成システム、研究者の協力
長期	組織の確立	・管理・運営体制の確立
	組織の運営、充実	・自然解説、プログラムの充実、エコツアーによる地域振興 ・利用者の意向把握 ・ガイドの資質向上

表 8: 自然体験プログラム(案)

プログラム種類	内容	プログラム種類	内容
登山プログラム	・大杉谷登山 ・筏場道登山 ・西大台～上北山村コース	グリーンツーリズム	・地域特産品加工体験 ・郷土料理体験 ・アマゴ採り体験 ・林業体験
クラフトプログラム	・木工品制作 ・自然素材加工	ボランティアプログラム	・清掃活動 ・森林保全活動 ・自然解説活動
教養プログラム	・自然体験学習 ・総合学習の受入 ・講演、シンポジウム ・写真撮影会 ・写生大会	自然体験プログラム	・自然観察会 ・ナイトハイク ・星の観察会 ・ネイチャーゲーム

⑤ ガイド制度等に関する先進事例の整理

(H18_p. III-1-10)

利用の質を高めるためのルール・仕組みづくり、ガイド制導入などを行っている先進的な事例を整理し、利用の改善を計るための仕組みづくりとその課題について抽出。

自治体等によるガイド制度の実施事例には、ガイドの資格制度に関して、資格認定型、資格登録型の2つのタイプの事例がある。

- i) 資格認定型 (事例①、②、③、④、⑤)
 - ・一定の基準に達したものをガイドとして認定
- ii) 資格登録型 (事例⑥、⑦)
 - ・一定の基準に達したものをガイドとして登録

また、対象地への立入りの際のガイド同行の義務化や、利用人数・ルート・期間に制限を設けるなど、利用調整地区と類似した制度を設けている事例もある。(事例③、⑤)

表 9：自治体によるガイド制度一覧

事例（所轄団体等）	開始年	審査方法	特典／実績
①北海道アウトドアガイド資格制度 （北海道総合企画部地域振興課／NPO法人北海道アウトドア協会）	H14～	・個人資格制度：筆記・実技試験 ・優良事業者登録制度：書類審査、現地調査	・ホームページやパンフレットでの公表 ・資格取得ガイド：522人、優良事業者：11団体（ともにH18.11.1現在）
②福島県ツーリズムガイド認定制度	H15～	・書類選考、口述試験 ・各研修の修了、研修後の実務経験、救急法履修等が受験資格となる。	・ホームページでの公表 ・資格取得ガイド：39名（H17）、19名（H18）
③東京都（小笠原）自然ガイド養成認定制度（東京都環境局自然環境部）	H14～	・「東京都自然ガイド認定講習」受講修了により認定。	・都指定「自然環境保全促進地域」でのガイド行為が可能 ・講習修了者190名程度（H16）
④藤里町認定ガイド養成事業（藤里町企画振興課）	H13～	・「自然観察ガイド講習会」の実施 ・受講後の試験における合格者のみを認定。	・藤里町観光協会に登録 ・登録者14名（H15）
⑤乗鞍山麓五色ヶ原におけるガイド制度（高山市丹生川支所産業振興課）	H16～	・講習および実地研修を修了したものを「案内人」として認定。	・五色ヶ原でのガイド行為が可能 ・登録者63名（H18）
⑥屋久島ガイド登録・認定制度（屋久島地区エコツーリズム推進協議会）	H17～	・7つの登録基準（各種法令に関する講習、基本的な屋久島の知識に関する講習の受講、「ガイド心得」への同意、屋久島への居住年数など）を満たすかどうかを審査。	・ホームページでの公表 ・登録者104名（H18.9.14） ・ガイドの認定制度について検討中（H20年より試行開始予定）
⑦白馬マイスター制度（白馬村観光局）	H15～	・地域の自然や文化を熟知したガイドを登録	・ホームページでの公表

⑥ 山岳地域におけるガイドの事例整理

(H18_p. III-11)

全国各地の山岳地域におけるガイドング事例は、登山等の山岳利用に関するガイドングと自然解説を主体としたガイドングに区分され、各地で多様な活動が展開している。また、対象とするフィールドによって、ガイドに求められる技術や能力が異なっている。

表 10：ガイドング事例

ガイドングのタイプ	フィールド	概要
登山等の山岳利用に関するガイドング	大台ヶ原	・宿泊型登山ガイドの実施
	富士山	・少人数制登山ツアーの実施 ・初心者・健脚、宿泊・日帰りなど多様なコースを設定
	屋久島	・ガイド登録制の実施 ・個人ガイドによる多様なツアーの企画、実施
	戸隠	・初心者から、経験者・熟練者向など本格的な登山を対象としたものまで多彩なコースを設定
	国内各地	・日本山岳ガイド協会認定ガイドによる個人のガイド活動事例
自然解説を主体としたガイドング	尾瀬	・サブレンジャー、尾瀬ボランティアなどの人材の活用
	青木ヶ原樹海	・富士河口湖町が認定したネイチャーガイドが案内 ・定時ガイドツアーに加え、自由なコース設定
	白神山地	・多様なコース設定と地域住民によるガイドング
	嬬恋村	・地域住民を主としたインタープリター、トレッキングガイドの派遣
	菅平高原	・インタープリターによる通年・屋内外での多様な体験プログラムの提供 ・小中学校の学習旅行などの受け入れ

	里地的自然環境	原始的な自然環境	
○フィールド	・里山、高原、低山、森林、原野、河川など、比較的身近な自然環境をフィールドとする。 ・よく整備された登山道を歩く。	・里山、高原、低山、森林、原野、河川などをフィールドとする。 ・ハイキングと登山の中間的な位置づけ	・森林、原野など、人の手が加わっていない自然環境をフィールドとする。 ・山頂を目指して登る、または通過する。
○難易度	初心者 ハイキング	中級者 トレッキング ワンダーフォーゲル	上級者 登山
○ガイドに求められる技術	・自然環境知識 ・地域の文化・歴史に関する知識 ・危急時対応技術および応急処置 ・安全管理技術	・登山技術一般、及び自然環境知識 ・地理、地形、気象に関する知識 ・危急時対応技術および応急処置 ・安全管理技術	・登山技術一般、及び自然環境知識 ・地理、地形、気象に関する知識 ・危急時対応技術および応急処置(雪崩対策技術等) ・安全管理技術

※(社)日本山岳ガイド協会「山岳ガイド職能別資格検定試験詳細規定」を参考に作成。

図 6：対象とするフィールド別のガイドに求められる技術

⑦ ガイドの活動内容の事例整理

(H18_p. III-22-28)

2006年にNPO法人日本エコツアーリズム協会(JES)で88名のガイドを選定した。主な活動場所、得意分野、活動内容、プロフィールなどの情報がJESのホームページで公開し、利用者はそれらの情報を閲覧したうえで、希望に応じてガイドを指名できる。

⑧ 全国で展開するガイド養成・資格制度の実施事例の整理

(H18_p. III-29-32) (H19_p. 88-106)

今後の大台ヶ原におけるガイド講習プログラムの検討の基礎とするため、全国のガイド講習プログラムの実施事例を収集し、以下に整理した。

【主な特徴】

- ・対象地域の自然、文化、歴史、民俗等に関する幅広い知識を提供している。
- ・座学だけではなく、フィールドでの実技を含む。
- ・各分野の専門家や地域に精通した者を講師として招き、2～3日の集中講義として実施
- ・ガイドとしての責任、安全管理技術、保険等に関する講座を含む。

表 11：ガイド講習プログラムの実施事例一覧

事例	特徴
山岳ガイド認定制度 (里山ガイド、登山・山地ガイド、山岳ガイド)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 気象、読図や積雪期のガイディング等実践的な項目を提示 ・ 安全管理に関する項目を重視
森林インストラクター資格試験	<ul style="list-style-type: none"> ・ 山村、農林業に関する項目を提示 ・ 実技試験ではインストラクターとしての模擬演技を課す
NACS-J 自然観察指導員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然保護の考え方等について講義 ・ 受講修了者を対象とした研修会も実施
日本野鳥の会レンジャー養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然解説編と自然調査編の2部構成 ・ プログラムの実演発表等実践的なカリキュラムを学ぶ
自然学校指導者養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各自然学校での現場実習がある ・ 自然学校運営の基礎も学ぶ
エコツアーガイド養成講習会	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツアーに要する知識・技術から、エコツアーリズムの理念や資源管理手法について学ぶ
北海道アウトドアガイド資格制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然解説だけでなく、プログラムの企画立案、コミュニケーション技術等を課す
福島県ツーリズムガイド養成研修制度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研修会、地域別研修等3段階の研修 ・ 「福島学」や「裏磐梯学」等地域の特性への理解を深める研修内容になっている
丹沢エコツアーリズム担い手育成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ エコツアー体験、ツアー登山体験やモニターツアーの実施等野外での研修を提供 ・ 暮らしの歴史と里山文化等の講座を提供
青木ヶ原樹海・富士河口湖町公認ネイチャーガイド養成講座	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内講義と野外実習の割合が半々程度 ・ 受講後も研修を実施

⑨ 大台ヶ原周辺におけるガイド等に関する現状把握

(H18_p. III-33-40) (H19_p. 77-78)

H17年度より実施されている、インターネットなどの広告による団体ツアーの実施状況とそれに伴うツアー同行のガイド等の呼称と件数について調査し、大台ヶ原周辺におけるガイド等の現状把握を行った。

【結果】

- ・H18年度：確認できたツアー226件のうち、添乗員等が同行したものは161件で71.2%より専門性の高いと推測されるガイド等の同行は、24件で10.6%であった。
- ・H19年度：確認したツアー254件のうち、添乗員及びガイドの同行したものは、261件で85.0%。より専門性の高いと15.0%であった。

表 12：インターネットなどの広告による団体ツアーの実施状況

コース	平成17年度				平成18年度				平成19年度			
	西大台	東大台	不明	計	西大台	東大台	不明	計	西大台	東大台	不明	計
春(4～6月)	8(7)	62(41)	6(5)	76(53)	2(0)	16(12)	10(7)	28(19)	16(16)	53(36)	19(9)	88(61)
夏(7～8月)	15(8)	31(16)	0(0)	46(24)	5(5)	36(36)	5(5)	46(46)	57(36)	27(16)	6(2)	90(54)
秋(9～11月)	28(15)	75(43)	6(6)	109(64)	6(5)	135(135)	13(12)	154(152)	0(0)	66(35)	10(9)	76(44)
計	51(30)	168(100)	12(11)	231(141)	13(10)	187(183)	28(24)	226(217)	73(52)	146(87)	35(20)	254(159)

表 13：ツアー同行のガイド等の呼称と件数

区分	ガイド等の呼称	平成18年度		平成19年度	
		件数	主体数	件数	主体数
添乗員等	添乗員	154	8	213	9
	添乗員またはツアーメイト	7	1	3	1
	(小計)	161	9	216	10
ガイド等	ガイド	11	4	13	1
	山岳ガイド	5	1	12	2
	ツアーリーダー(山のガイド)	4	1	8	1
	専門ガイド	2	1	3	1
	登山案内人	2	1	2	1
	(小計)	24	8	38	6
不明		41	9	0	0
計		226	26	254	16

⑩ 旅行事業者ヒアリング結果からみるガイドの需要

(H18_p. III-41)

大台ヶ原における旅行社ツアーの実施状況を把握するため、旅行社等5社を対象に実施。ヒアリング調査結果からは、専門のガイドを同行させるツアーはほとんど見られなかった。西大台については、東大台に比べて「険しく危険な場所」との認識を持っており、添乗員やスタッフ(専門的なガイドではない)を同行させていた。

表 14：調査概要

ヒアリング対象	旅行社4社、交通事業者1社(平成15年度バス調査において確認された旅行社・交通事業者のうち、複数回の来訪が確認された5社を抽出)
ヒアリング項目	①現在大台ヶ原において展開しているツアーについて(年間企画数、最小催行人数や料金設定など) ②西大台の利用について(現状、今後の展開予定) ③利用調整地区制度の導入について(認定料、利用者数の制限、ガイド同行義務等)
ヒアリング実施日	平成17年4月～5月

⑪ 大台ヶ原周辺におけるガイドの実態調査

(H18_p. III-42-43) (H19_p. 77-78)

大台ヶ原周辺では、上北山村による自然体験イベントや「山岳ガイドクラブ北山いこら」等による、地域におけるガイド等の活動が展開している。

(i) 上北山村によるイベント開催状況

表 15：上北山村によるイベント開催状況

日時	名称	備考
H17年度		
5/15(日)	大台ヶ原祭り、自然観察ハイキング	
10/20(日)	「心の道ウォーク」原始の森「西大台」	
H18年度		
5/21(日)	大台ヶ原山まつり「自然観察会」	初級者から 定員 30名
7/29(土) ～30(日)	自然に学び、遊ぼう 日本百名山「大台ヶ原」と北山川の川遊び	一日目：自然観察会 二日目：北山川上流、小椽川での川遊び
10/17(火) ～18(水)	日本百名山「大台ヶ原」と世界遺産「大峯奥駈道」体感ウォーク	中級者以上 定員 30名 一日目（東大台、西大台のどちらかを選択） 二日目（和佐又山、笹ノ窟、大普賢岳から選択）
10/21(土)	「伯母峰～和佐又」ウォーク 大台ヶ原と大峰を結ぶ、動物通う稜線の道に行く	中級者以上 定員 30名
10/25(水)	原始の森「西大台」ウォーク	中級者以上 定員 30名
H19年度		
5/23(水) 10/24(水)	がんばろう上北 大自然体感ウォーク 「伯母峰～和佐又」ウォーク 大台ヶ原と大峰山「大普賢岳」を結ぶ尾根で、各種動物や野鳥の行き交う自然豊かな稜線の道を歩く	歩行時間約3時間、高低差約400m、距離約7km
8/28(火)	大台ヶ原自然観察会	地元小中学校 17名参加 主催：環境省近畿地方環境事務所・村教育委員会

出典：上北山村,広報「かみきたやま」

(ii) 大台ヶ原の周辺地域のガイドクラブ

山岳ガイドクラブ 北山いこら			
◇経緯：H17年に上北山村地域住民により発足			
◇専門：林業関係等			
◇活動：大台ヶ原、大峰山系の山岳ガイド 森林ガイドを有償で実施			
表 16：H19年度 北山いこらガイド実績			
コース	ガイドを行った延べ日数	ガイド人数	利用客の延べ人数
西大台地区	15日間	15人日	376人 ・5団体/349人 ・個人/27人
※上記のうち利用調整開始後(9月～11月)	1日間	1人日	1人 ・個人/1人
東大台地区	30日間	33人日	501人 ・25団体/501人

川上村 「山の学校」達っちゃんくらぶ	
◇経緯：自然体験活動を通じた都市との交流を行い、地域の活性化を図ることを目的にH10年に発足	
◇活動	
・「山で遊び山の学校 達っちゃんクラブ」をキャッチフレーズに四季折々の自然や文化を楽しめるプログラムを提供	
・H15年より発足5周年記念事業として「達っちゃんクラブの森」における森づくりを開始。	
・広葉樹の植樹、下草刈り、歩道の整備などの体験プログラムを提供。安全面から1回の参加定員を30名と限定。	

⑫ ガイド制度の推奨の仕組みの検討

(H18_p. III-44-53) (H19_p. 83-87)

H18年度よりガイド制度等検討WGが設置され、ガイド制度の実現に向けて具体的検討が実施されている。平成19年度までに検討された項目は、「ガイド制度の目標」、「ガイド制度の基本的考え方」、「ガイドに求められる資質」、「ガイド推奨の仕組み」、「ガイド登録制度の仕組み」、「西大台利用調整地区ガイドの登録要件」の6項目であり、これらは概ね合意がなされている。

今後の大台ヶ原におけるガイド制度の進め方は以下ようになる。

- ・ガイド登録要件についての合意形成
- ・ガイドのあり方、ガイド登録要件等に基づく、ガイド講習プログラムの確立（ガイド講習会・研修会等の試験的实施）
- ・ガイド登録制度の試験的運用に向けた条件整理を行い、試験的運用を開始
- ・ガイド登録制度の運用主体となるガイド協議会（仮）の設置を検討
- ・ガイド協議会（仮）によるガイド登録制度の本格的運用に向けた検討
- ・ガイド協議会（仮）によるガイド登録制度の本格的運用の開始
- ・運用開始後の状況に応じた、登録要件やガイド講習プログラムの見直し

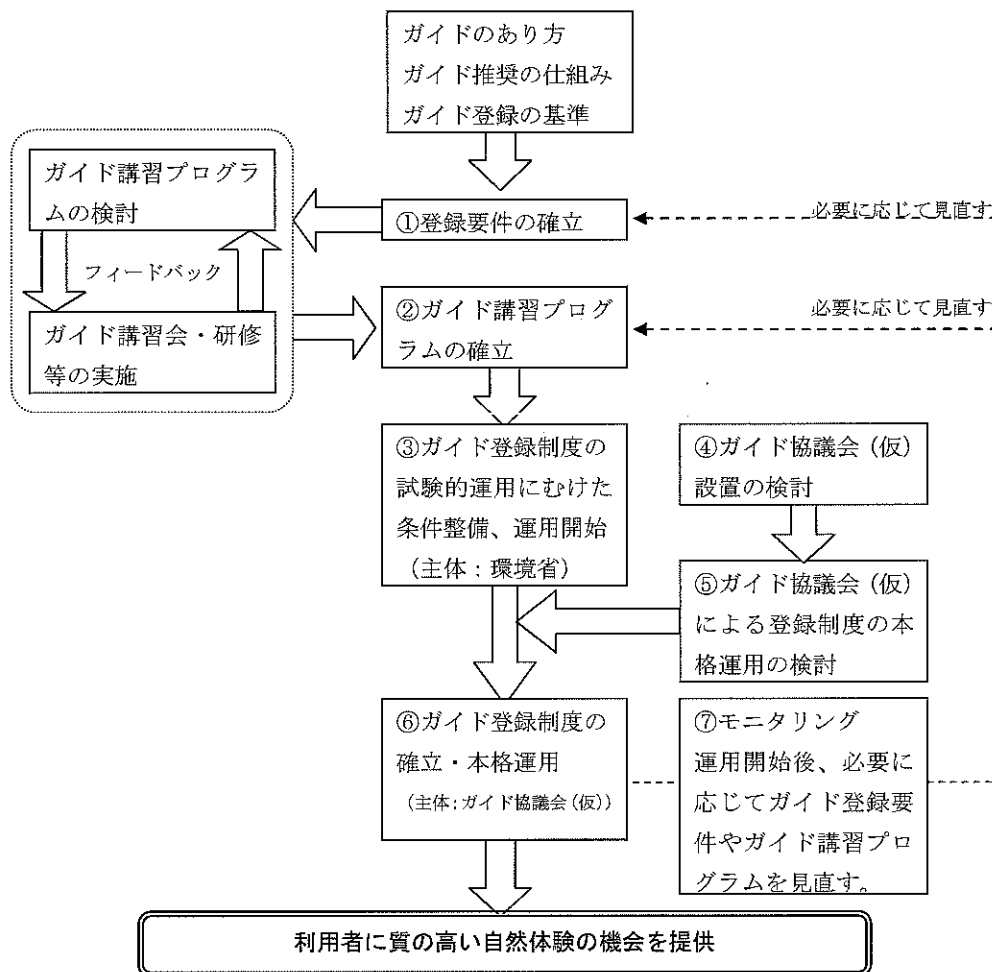


図7：ガイド制度の進め方

⑬ 西大台利用調整地区利用者を対象としたガイドに対する意向調査

(H18_p. II-69-71) (H19_p. 81-82)

H18年に実施した西大台地区の利用に関するアンケート調査では、ガイドに対する意向調査を行った。

【結果】

(i) H18年度(回収数110)

- ・ガイドを利用したことがある人は、全体の10%であり、大半の人は、ガイドの利用経験がなかった。
- ・大台ヶ原でガイドを利用するとした場合の希望については、「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」を希望する人が37.3%と最も多く、次に「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」が27.3%となった。「本格的な登山を指導してくれる山岳ガイド」を希望する人は少なかった。
- ・以前に西大台地区への来訪経験のある人(44人)と無い人(58人)とで、ガイドに関する希望内容を比較すると、来訪経験の無い人では、初心者向けの自然ガイドを希望する人の割合が若干高くなっている。
- ・ガイドを利用するとした場合の、支払ってもよい料金(利用者一人当たり)については、2,000円以内が最も多く、45.5%、次に2,000~3,000円が18.2%となり、3,000円以上払ってもよいという人は少なかった。

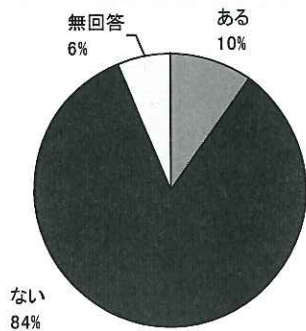


図 8: ガイド利用経験の有無

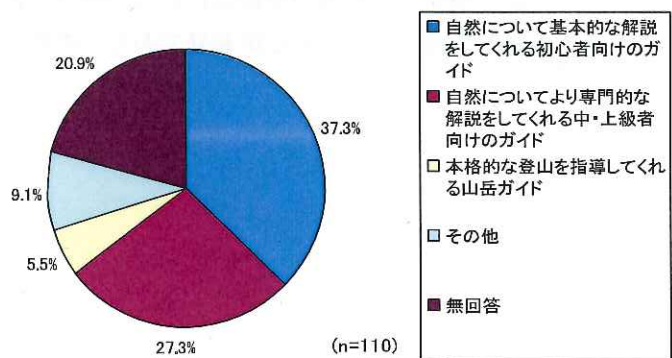


図 9: ガイドの内容に対する意向

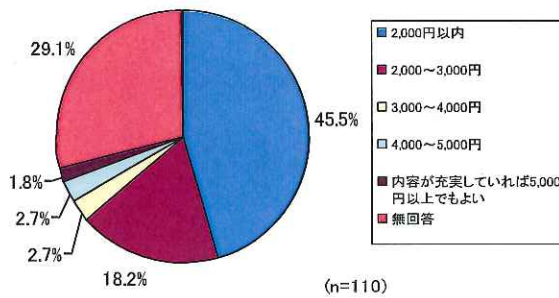


図 10: ガイド料金に対する意向

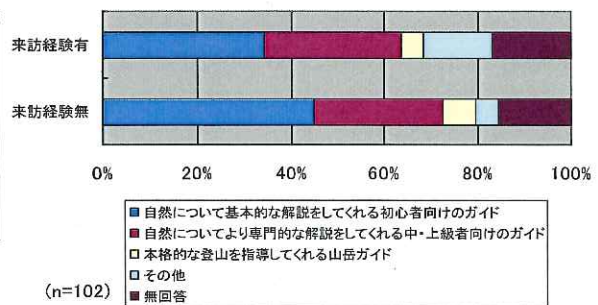


図 11: ガイドの内容に対する意向と西大台へ来訪経験

(ii) H19 年度(回収数 348)

H19 年度に実施した西大台利用調整地区利用者を対象としたアンケート調査の結果からは、コース所要時間や目的地までの距離等ペース配分の助言となる情報を求める意見、動植物等のより詳しい解説を求める意見、迷いやすいことに対する対応策を求める意見が多くみられた。

- ・道に迷わないように対策して欲しい(4 件)
- ・迷いやすいため案内標識の拡充が必要(50 件)
- ・解説標識を整備して欲しい(4 件)

(iii) 大台ヶ原におけるガイド需要について

大台ヶ原における団体ツアー等のガイド利用実態や、ガイドに関するアンケート調査から、以下のことが明らかになった。

- ・旅行社等の団体ツアーにおける専門ガイドの同行は 15%程度であり、その割合は少ない。
- ・上北山村及び地域のガイド団体へのガイド活動は活発である。
- ・より深い自然体験を楽しむための手法として、大台ヶ原におけるガイドングへの関心、期待は高い。
- ・ガイドを利用する場合、「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」の希望者が 37.3%と最も多かったが、次いで「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」の希望者も 27.3%となっている。
- ・案内標識や解説標識等の整備を求める意見が利用者から寄せられているが、西大台地区においては、積極的な施設の整備は行わない保全方針となっているため、施設整備ではなく、ガイド制度の導入による対応が有効であると推測できる。

c. 人材の把握

⑭ 大台ヶ原ガイド研修会

(H17_p. 193-201)

継続的な自然体験プログラムの実施に向け、人材育成プログラムを実施。

【開催概要】

- ・日時：H17年9月21日(水) 9:45～16:15
- ・場所：ビジターセンター、苔探勝路
- ・対象：バスツアーや自然観察会などのガイドやインタープリター（パークボランティア、川上村・上北山村自然観察ガイド希望者、観光関連事業者）
- ・講師：松井淳（奈良教育大学教授）、大西かおり（大杉自然学校校長）、岩本泉治（NPO 森と人のネットワーク奈良理事）
- ・受講者：24名（一般22名、ビジターセンター職員2名）

【内容】

- ・自然体験活動の理念及び指導法について(講師：大西かおり氏、岩本泉治氏)
- ・大台ヶ原の森林生態系について(講師：松井淳氏)
- ・自然解説の実地学習(講師：松井淳氏、大西かおり氏、岩本泉治氏)

⑮ 「ガイド研修会」参加者を対象としたアンケート

(H17_p. 202-206)

ガイド研修会終了後、参加者を対象にアンケート調査を実施した。

a) 居住地

奈良県（17名）、大阪府（4名）、兵庫県（2名）、京都府（1名）

b) 来訪の交通手段

自家用車（23名）、無記入（1名）

⇒研修会開始時刻が、バス到着時刻よりも早く設定されていたため。

c) 満足度

満足度の評価を7段階で示したところ、5～7が大半で、平均値は5.6であった。

d) 満足した点（7つの選択肢より複数回答）

- ・講師の説明がわかりやすかった（19/24）
- ・参加人数が適正であった（11/24）
- ・実地研修をすることができた（10/24）
- ・ガイドの重要性を知ることができた（10/24）

表 17：満足した点

	人	%
講師の説明がわかりやすかった	19	79.2
参加人数が適正であった	11	45.8
実地研修をすることができた	10	41.7
ガイドの重要性を知ることができた	10	41.7
研修時間の設定が適切であった	9	37.5
開催時期の設定が適切であった	6	25.0
その他	0	0.00

n=24

e) 改善すべき点 (自由記述)

- ・大台ヶ原の歴史にも触れる
- ・実地研修を長く
- ・募集の段階で研修の目的を明確に
- ・開始時間が早すぎる

f) ガイドとして参加したいプログラム (11 の選択肢より複数回答)

- ・西大台ヶ原のガイドハイキング (14/24)
- ・樹木の観察会 (12/24)
- ・紅葉時期など季節に応じた自然観察会 (11/24)

表 18: ガイドとして参加したいプログラム

	人	%
西大台ヶ原のガイドハイキング	14	58.3
樹木の観察会	12	50.0
紅葉時期など季節に応じた自然観察会	11	45.8
花の観察会	7	29.2
動物の観察会	7	29.2
夜の観察会	7	29.2
自然再生事業の野外説明会	7	29.2
星の観察会	6	25.0
野鳥の観察会	4	16.7
その他	2	8.3
早朝の自然観察会	1	4.2

n=24

g) 意見・感想 (自由記述)

- ・次回も参加したい (11 件)
- ・改善・工夫すべき点 (5 件)
- ・研修会の目的、位置づけが不明 (3 件)

d. その他の条件整理

⑩ 自然体験プログラム、自然観察会の実態調査

(H16_p. 205-211)

H16 年度に、旅行会社のツアー状況、自然学校等の利用の現状を把握し、自然体験プログラムの実施に向けた課題整理を行った。

(i) 旅行会社のツアー状況

a) 日帰りツアー

- ・関西各地発着の日帰りバスツアーが多い
- ・料金は、約 3,800～7,480 円程度(シーズン、曜日で変動)
- ・東大台地区の周遊プランが多い
- ・弁当、添乗員付きの企画の割合が多い

b) 宿泊ツアー

- ・近畿圏外からの発着ツアーが多い
- ・大峰山と組み合わせたプランや講師の語りを聞くことができるプラン、温泉等の地域の関連施設と連携したプランなどの企画が多い。

c) 課題

- ・山頂での宿泊などを通じて、質の高い自然体験ができるプランの検討
- ・地域の活性化に寄与するようなプランの検討

(ii) 自然学校等の利用状況

現在、大台ヶ原をフィールドとしている自然学校は、大杉谷自然学校のみである。また、奈良県では、「紀伊半島体験学習ガイド」の自然体験分野の1つとして、大台ヶ原ビジターセンターでの森林体験を提供している。

(2) その他の実施項目

⑰ 自然体験プログラムの開催とアンケートの実施

(H17_p. 207-221) (H18_p. III-72-76) (H19_p. 122-131)

(i) 自然体験プログラムの開催

H17 年度より大台ヶ原の自然環境を保全・再生を進めるために、知られざる大台ヶ原の魅力や楽しみ方を参加者に伝えると共に、自然再生の取組みの一環である閑散期利用の誘導や公共交通利用を呼びかけることを目的に自然体験プログラムが開催されている。

表 19：H17～H19 年度までの自然体験プログラム

年度	内容	開催日時
H17年度	千石正一先生と歩く大台ヶ原	①自然観察会 10月 9日(日) 12:00～15:30
		②ナイトレクチャー 10月 9日(日) 19:30～21:00
		③自然観察会 10月10日(祝) 11:00～13:00
H18年度	秋の写真撮影講習会	①東大台地区 10月15日(日) 11:30～15:30
		②西大台地区 10月22日(日) 11:30～15:30
	自然観察会「大台ヶ原のほ乳類」	- 10月29日(日) 11:30～15:30
H19年度	自然観察、自然再生計画について	- 10月27日(土) 10:30～13:30

(ii) アンケートの実施

H17、19 年度に開催した自然体験プログラムで、プログラム終了後にアンケート調査を実施した。なお、H19 年度のアンケートについては自由記述であるため、H17 年度の調査結果から抜粋する。

a) 情報源 (上位 3 つ)

- ・ 知人の紹介：16 名
- ・ 環境省 HP (メールマガジン含む)：6 名
- ・ 中吊り広告 (近鉄電車車内)：6 名

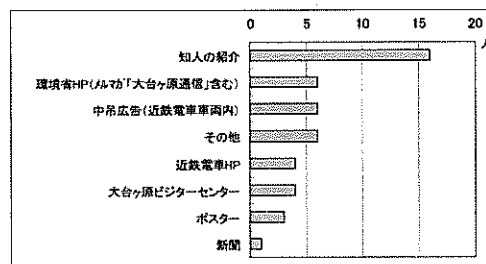


図 12：情報源

b) 参加動機 (上位 3 つ)

- ・ 千石先生のお話を聞くことができるから：28 名
- ・ 大台ヶ原に興味があったから：21 名
- ・ 自然と触れ合うことができるから：19 名

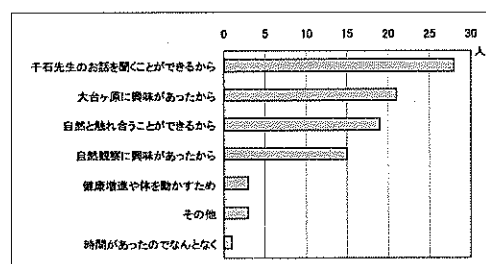


図 13：参加動機

c) 来訪頻度

来訪者については二極化

- ・ 今回がはじめて：43.9%
- ・ 1年に何回も：26.8%

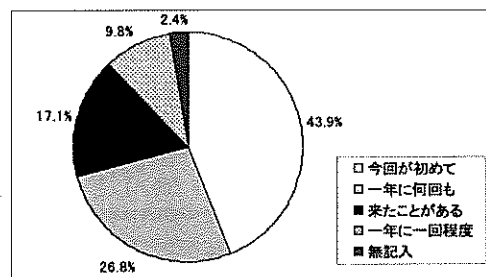


図 14：来訪頻度

d) プログラムの満足度 (5段階評価)

平均値は、3.3~3.7であった。

e) 満足した点 (7選択肢より複数回答) (上位3つ)

- ・千石先生のお話を聞くことができた：32名
- ・珍しい動植物を観察することができた：16名
- ・歩くコースの距離・難度が適当であった：12名

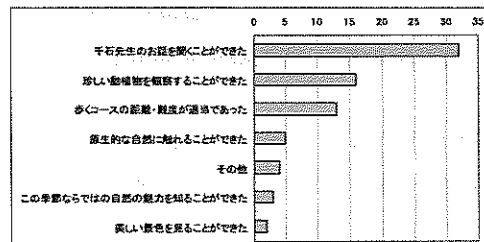


図 15：満足した点

f) 電車・バス等の公共交通の利用について (5段階評価)

電車・バス等公共交通利用の快適性の平均点は3.42点であった(回答26名)。

「とくに不便は感じなかった」という意見とともに「便数、料金等を改善すべき」という意見もあがった。

g) 参加したいプログラム (10選択肢より

複数回答) (上位3つ)

- ・野生動物の観察会：18名
- ・夜の自然観察会：14名
- ・星の観察会：13名

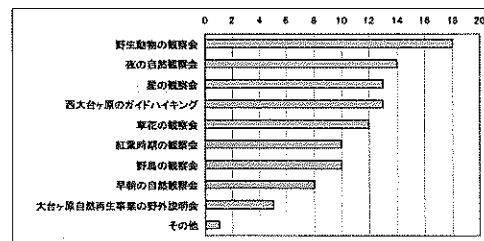


図 16：参加したいプログラム

h) 公共交通利用が参加条件となった場合

- ・交通手段に関わらず参加する：32名
- ・参加しない：2名
- ・その他(時間があれば参加する)：1名

⑱ アクティブ・レンジャーによる自然観察会の開催とアンケートの実施

(H18_p. III-77) (H19_p. 114-117)

適正な利用の促進と利用の少ない平日への利用誘導を目的に、H17 年度よりアクティブ・レンジャーによる自然観察会を継続的に実施している。H17 年度については、報告書に記載がないため、18、19 年度の開催概要を以下に示す。

(i) H18 年度

- ・開催日時：5～10 月(大台ヶ原ドライブウェイ開通時)のほぼ毎週水曜日
午前と午後の1日2回
- ・対象：一般参加者
- ・参加費：100 円(公共交通利用者は無料)
- ・参加者総数：63 人

(ii) H19 年度

- ・開催日時：5～10 月(大台ヶ原ドライブウェイ開通時)のほぼ毎週水曜日
9:00～10:00、11:00～12:00、13:30～14:30 の1日3回
- ・対象：一般(小学生以下は保護者同伴)
- ・参加費：100 円(保険代)
- ・定員：各回 10 名、計 30 名

(iii) H18、19 年度のアンケートの結果

観察会終了後に参加者にアンケートを実施した。H18 年度は 57 人、H19 年度は 70 人の回答が得られた。以下に両年の傾向を示す。なお、赤字は H18 年度の結果、黒字及び図は H19 年度の結果を示す。

a) 参加者の属性(性別、年齢)

50代が最も多く、40代、60代の割合も高く年配の方の参加が多い。

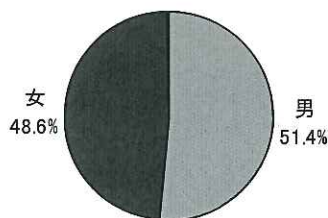


図 17：性別

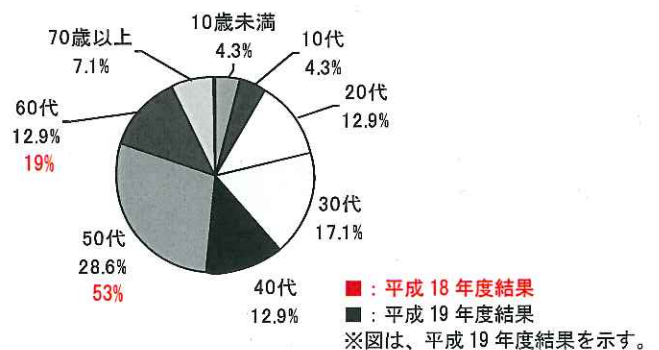


図 18：年齢

b) 居住地

参加者の居住地は、大阪、奈良、兵庫が大半を占めている。

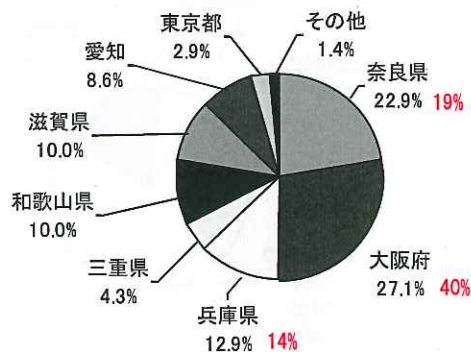


図 19：居住地

c) 交通手段

H18 年度では 96%、H19 年度では 97.1%が車での利用であり、公共交通の利用が少ない。

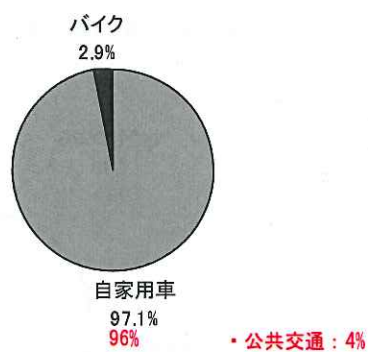


図 20：交通手段

d) 大台ヶ原への来訪回数

来訪頻度は、両年とも「初めて」が約 50%を占める。

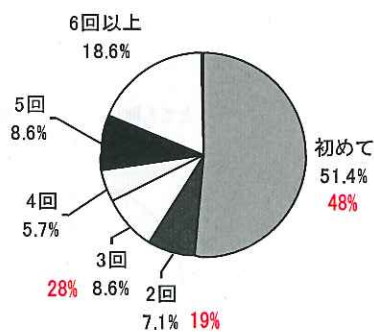


図 21：大台ヶ原への来訪回数

e) 自然観察会を知ったきっかけ

自然観察会の開催情報は「当日アナウンス」がH18年度54%、H19年度が74.3%であり、情報提供の充実が望まれる。

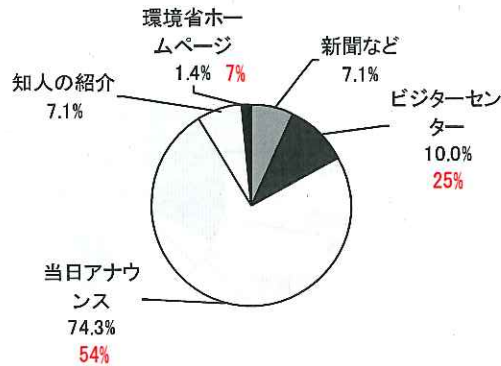


図 22：自然観察会を知ったきっかけ

f) 自然観察会の満足度

満足度は、H18年度で「とても楽しい」が49%、H19年度では38.6%となっており、両年とも高評価を得ている。

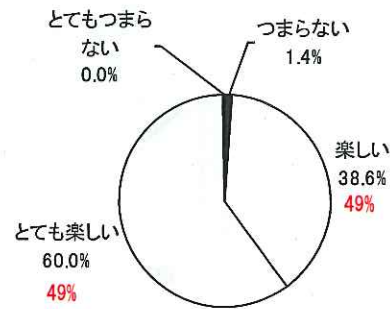


図 23：自然観察会の満足度

g) 説明に関する評価

観察会のわかりやすさについては、「わかりやすい」が両年とも70代と大半が内容を理解していることが伺える。

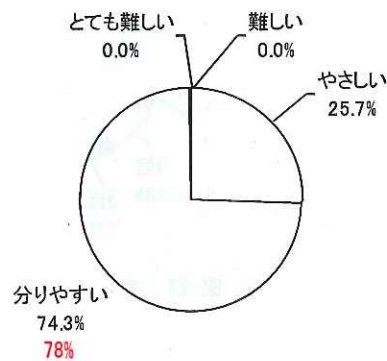


図 24：説明に関する評価

⑱ パークボランティアによる自然観察会の開催とアンケートの実施

(H19_p. 118-121)

(i) パークボランティアによる自然観察会の開催

大台ヶ原地区パークボランティアが東大台地区の歩道を一般参加者と歩きながら、自然解説や五感を使った解説を行い、一般の参加者に大台ヶ原の自然により深く触れ、自然の大切さを理解してもらうことを目的に、H19年度に計4回実施された。

【開催日】

- ・H19年6月10日(日)
- ・H19年7月22日(日)
- ・H19年9月9日(日)
- ・H19年10月21日(日)

【参加費】

200円(地図代・保険代)

【広報について】

- ・近畿地方環境事務所 : HPによる広報
- ・吉野自然保護管事務所: 奈良県、京都府、大阪府庁記者クラブ、きんき環境館メールマガジン、ならリビング、奈良新聞(奈良新聞系列)、道の駅、大台荘などの観光施設

【プログラム概要】

表 20: プログラム概要

コース	定員	場所	開催時間	概要
半日コース	20名 (先着順)	東大台周回線歩道沿い	10:30~15:30	大台ヶ原周回線歩道を自然解説を交えながら周回する。たっぷり時間をかけて東大台ヶ原の魅力を堪能したい方向けのプログラム
ショートコース	各10名 (先着順)	苔探勝路周回歩道 上道(駐車場から日出ヶ岳) 中道(駐車場から尾鷲辻)	①10:30~11:30 ②13:30~14:30	短時間で自然の楽しみ方を体験したい方向けのプログラム

(ii) アンケートの実施

パークボランティアによる自然観察会の参加者 38 名に対して、アンケート調査を実施し、25 人の回答を得た(回収率 65.8%)。

a) 参加者の属性(性別、年齢)

性別は、男性が 44.0%、女性が 56.0%であった。年齢は、30代が最も多く 32.0%を占め、次いで、50代、60代がそれぞれ 20.0%であった。

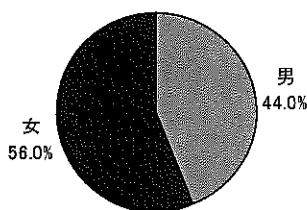


図 26: 性別

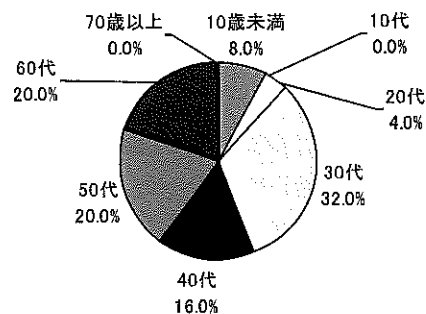


図 25: 年齢

b) 居住地

参加者の居住地については、大阪府が最も多く、36.0%を占め、次いで、奈良県 32.0%、愛知県 20.0%の順となっている。

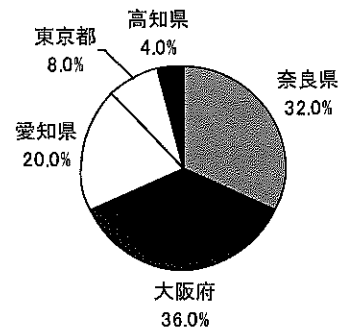


図 27：居住地

c) 交通手段

交通手段は、25名全員が自家用車であった。

d) 自然観察会を知ったきっかけ

パークボランティアによる自然観察会を知ったきっかけは、当日のアナウンスが最も多く、64.0%を占め、次いで、ビジターセンターが 20.0%と多かった。

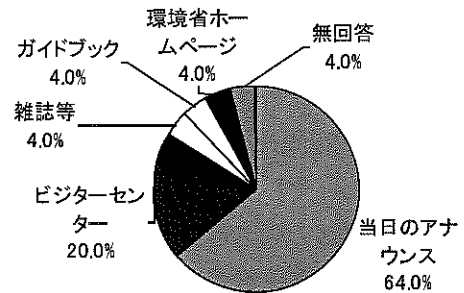


図 28：自然観察会を知ったきっかけ

e) 自然体験の満足度

自然体験の満足度については、7点（大変良い）、6点、5点、4点（普通）、3点、2点、1点（大変悪い）の7段階で評価を求めた結果、7点が最も多く 64.0%を占め、次いで、6点が 20.0%と多かった。2点以下とした参加者はいなかった。

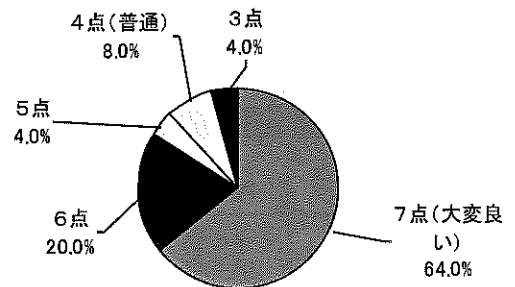


図 29：自然体験の満足度

f) 説明に関する評価

説明の分かりやすさについては、7点（大変分かりやすい）、6点、5点、4点（普通）、3点、2点、1点（大変分かりにくい）の7段階で評価を求めた結果、7点が最も多く、76.0%を占め、次いで、6点が 20.0%であった。

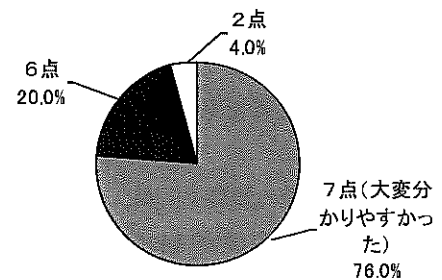


図 30：説明に関する評価

g) 自由意見

- ・初めて来たので、このようなガイドがあって、たいへん助かった。(3件)
- ・トイレが無いのが困った。
- ・自然の大切さを学ぶことができた。(5件)
- ・当日でも気軽に参加できたのがよかった。

5. 情報提供・情報発信の充実

5-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的

多様な情報ツールを活用した情報提供・情報発信の充実により、利用に係わる量の適正化、質の改善に資するとともに、質の高い自然体験、環境学習の場としての充実を図る。

5-2. 結果

(1) 情報提供・発信に係る現況調査と課題の整理

① ホームページの更新進捗状況

(H16_p. 286-287) (H17_p. 223-226) (H18_p. III-78-79)

大台ヶ原自然再生ホームページの構成と、更新進捗状況の整理を行った。

(2) 情報発信の充実

② ホームページによる情報発信

(H17_p. 223-226) (H18_p. III-78-84) (H19_p. 108)

(i) ホームページの更新

平成16年度より「大台ヶ原自然再生推進ホームページ」を開設している。随時、各種委員会情報や自然体験プログラムなどの各種イベント情報、奈良交通バスダイヤ改正情報などを更新している。

(ii) メールマガジンの配信 (H17_p. 229-241)

(H18_p. III-89-101) (H19_p. 112)

メールマガジンの登録者数は、H20年1月現在で、341と、創刊号配信時(H17年9月)の登録者数25、またH19年1月時点での登録者数219と比較して順調な伸びを示している。

内容としては、イベント情報や自然再生への取り組み状況、公共交通利用促進等の呼びかけ等を中心に配信している。

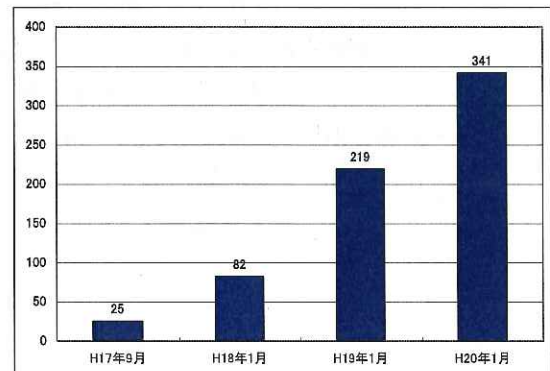


図 31：年度別メールマガジンの登録数

(3) その他の実施項目

③ 写真コンテストの開催

(H17_p. 242-249)

【実施体制】

主催：環境省

協賛：富士フィルムイメージング㈱

後援：川上村、上北山村

【募集】

募集期間：H17年9月20日～12月20日

募集方法

- ・応募用紙つき募集チラシ（ビジターセンター、近畿地区自然保護事務所、富士フォトサロン大阪、富士フォトギャラリー大阪、川上村各機関、上北山村各機関等）
- ・大台ヶ原自然再生HP
- ・公共交通利用促進ポスター・中吊り広告
- ・専門誌（月刊フォトグラフ）

【結果】

- ・応募状況：272作品（応募人数94名）
- ・1次審査：H17年12月下旬～H18年1月上旬
255作品（欠格17作品）
- ・2次審査：H18年1月10日（火） 13:30～
入賞13作品（最優秀賞1点、優秀賞2点、入選10点）
- ・表彰：H18年2月4日（土） 14:00～
- ・作品展示：富士フォトギャラリー大阪3：H18年2月4～16日
きんき環境館：H18年2月28日～3月11日

④ ホームページのアクセス状況

(H17_p. 227-228) (H18_p. III-85-88) (H19_p. 108-110)

(i) PC用サイトのアクセス状況

H18年とH19年を比較すると、H19年の総訪問者数(39,322人)は前年(32,560人)との比で121%増加しており、ホームページによる大台ヶ原情報の収集行動が着実に浸透しつつあるといえる。

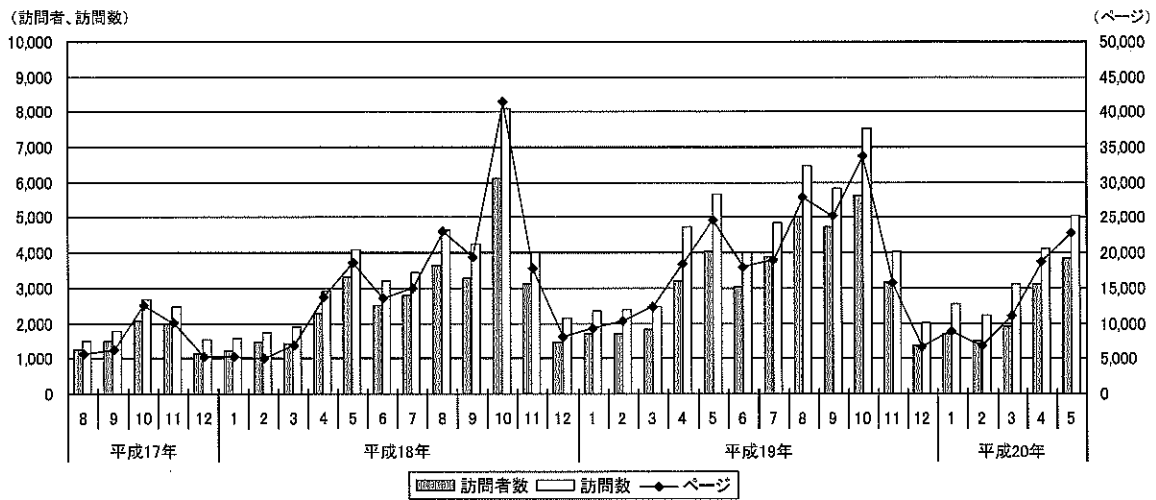


図 32：月別訪問者数、訪問数、閲覧ページ数(PC用サイト)

(ii) モバイル用サイトのアクセス状況

H17年8月～H19年12月の29ヶ月間におけるモバイルサイトの総訪問者数*は1,879人、また総訪問数は5,402回、閲覧ページ総数7,893ページであった。H19年は、春にもリアルタイム情報の提供を行っていることから、10、11月だけでなく、4、5月にもアクセス数の増加がみられた。

また、コンテンツカテゴリ別では、「トップページ」及び「大台ヶ原へのアクセス」へのアクセス数が最も多い結果となっている。

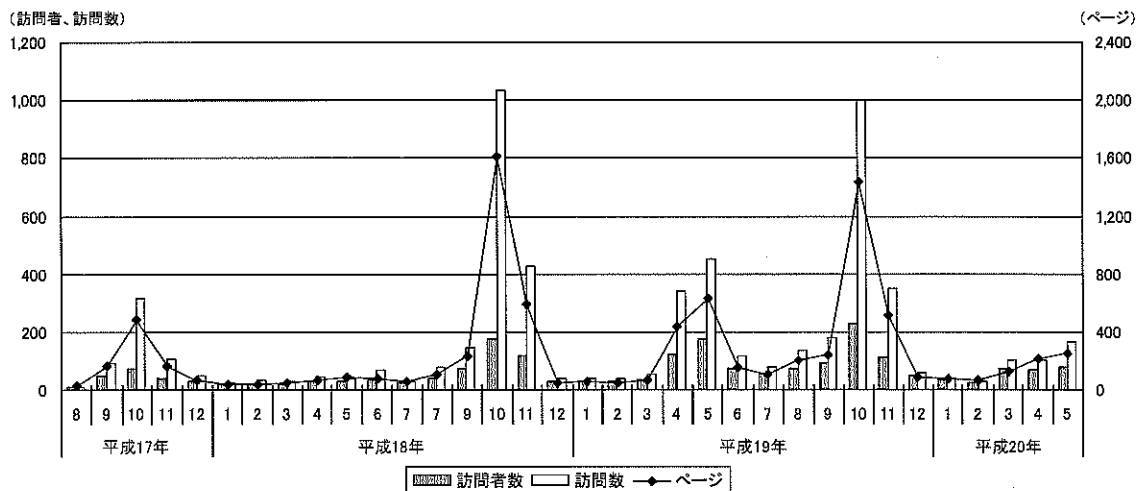


図 33：月別訪問者数、訪問数、閲覧ページ数(モバイル用サイト)

6. ビジターセンター機能の充実

6-1. 大台ヶ原自然再生推進計画における目的

大台ヶ原利用の拠点として、博物展示機能、情報提供機能、利用指導機能、自然観察会等によるイベント、教育機能を充実する。

6-2. 結果

(1) 機能整理

① ビジターセンターの活動把握

(H16_p. 205)

大台ヶ原の自然や文化及び利用方法などについて情報提供を行う場として、さらに自然観察会などの自然教育活動を行う拠点となるよう、ビジターセンターの機能を向上していく

a) スタッフ

県職員3名が勤務、H16年から臨時職員として環境省からボランティアコーディネーター2名が派遣されている。

b) 活動内容

職員の主な活動内容は、登山指導、気象情報、自然情報(開花、紅葉など)の問い合わせの対応、展示品の更新である。

c) 課題

・関係者の活動拠点としての整備

パーク・ボランティアの活動拠点としてだけでなく、さまざまな人が関わり、活動や情報の集積地となっていくことが望まれる。

・情報提供への協力

現在は、情報発信が十分でないため、現地の拠点としての利点を活かし、利用者のニーズに合った情報提供が可能となる設備の充実や体制づくりが望まれる。

(2) その他の実施項目

② ビジターセンター展示の改修

(H18_p. III-102)

S40年に大台ヶ原ビジターセンターが開設し、H2年にリニューアルした。
H18年度には、既設展示物の更新と自然再生に向けた取組みを紹介する新規展示物の整備が実施された。

【既設展示物の更新】

- ・ 解説カウンター上のパネルの更新
- ・ ビデオライブラリーの再構成

【新規展示物の整備】

利用動線および既存の展示物に配慮し、現状の空きスペースに自然再生がイメージ的に理解できるような展示物の整備を実施した。

内容については、過去ー現在ー未来という観点で、自然再生の流れが楽しくイメージでき、分かりやすくすることに重点を置いた。

図 34：新規展示イメージ

